

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に関する

駐車場対策協議会 設立趣意書

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京 2020 大会」という。）は、世界有数の成熟都市で開催される大会であり、大会関係車両や観客の交通需要の影響による道路、鉄道等の混雑が想定されている。このため、東京 2020 大会の開催に当たっては、安全で円滑な大会輸送の実現と経済活動の安定を両立することが必要不可欠である。

大会輸送においては、選手等の大会関係者は専用のバスや乗用車により移動し、観客等は公共交通機関を利用して移動していただく計画であり、大会時の交通混雑緩和に向けて、国、東京都、東京 2020 組織委員会に加え、経済界等も一体となった交通需要マネジメント（TDM）の推進に取り組んでいる。

会場周辺においては、交通渋滞や事故等の要因となる空き駐車場を探して移動する「うろつき交通」をなくす対策が必要である。このため、時間貸し駐車場を管理運営する民間事業者と連携した駐車場対策の取り組みを検討することが必要となっている。

東京 2020 大会時のうろつき交通等の防止や自動車交通量の抑制に向け、会場周辺の駐車場を計画的にマネジメントし、交通の円滑化や安全性の確保を図るため、必要な検討と調整を行うことを目的として、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に関する駐車場対策協議会を設立するものである。

(案)

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に関する 駐車場対策協議会 規約

(名称)

第 1 条 本会は、「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に関する駐車場対策協議会」（以下「協議会」という。）と称する。

(目的)

第 2 条 協議会は、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京 2020 大会」という。）における会場周辺の駐車場を計画的にマネジメントし、交通の円滑化や安全性の確保を図るよう、必要な検討と調整を行うことを目的とする。

(検討調整事項)

第 3 条 協議会は、次の事項について検討、調整等を行う。

- 一 東京 2020 大会に向けた駐車場対策に関すること
- 二 利用者への広報や情報提供に関すること
- 三 その他必要な事項

(構成)

第 4 条 協議会の委員は、別紙の委員で構成する。

- 2 委員の追加、変更は、協議会の承認を得るものとする。

(委員の任期)

第 5 条 委員の任期は、第 3 条に定める事項が終了するまでとする。

(ワーキンググループの設置)

第 6 条 協議会の事務を円滑に遂行するため、ワーキンググループを設置する。

- 2 ワーキンググループ委員は、事務局で定めるものとする。

(守秘義務)

第 7 条 委員は、審議で知り得た内容、個人情報など公開することが望ましくない情報を漏らしてはならない。また、その職務を退いた後も同様とする。

(会議の公開)

第 8 条 協議会は、原則公開とする。

- 2 ワーキンググループによる会議及び配布資料、議事については、非公開とすることが

(案)

できるものとする。

3 これにより難い場合は、協議会に諮った上で決定する。

(事務局)

第9条 事務局は、国土交通省道路局企画課、東京都オリンピック・パラリンピック準備局大会施設部輸送課、東京都都市整備局都市基盤部街路計画課、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会輸送局に置く。

(その他)

第10条 この規約に定めのない事項等は、委員に諮った上で決定する。

附則

この規約は、令和元年5月31日から施行する。

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に関する
駐車場対策協議会 委員名簿

委員	所属・役職等	備考
村山 一弥	国土交通省道路局企画課長	
日下 真一	警察庁交通局交通規制課長	
佐久間 巧成	東京都オリンピック・パラリンピック準備局輸送担当部長	
山下 幸俊	東京都都市整備局都市基盤部長	
中木 文行	タイムズ24株式会社 取締役専務執行役員 法人営業本部長	
片岡 純市	三井不動産リアルティ株式会社 常務執行役員 シェアリング事業本部長	
永田 哲郎	一般社団法人東京駐車協会 常務理事	
蓮見 有敏	公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 輸送局道路戦略担当部長	

(敬称略)



TOKYO 2020

G U I D E B O O K

東京 2020 大会 ガイドブック

1 大会概要

— 2020年、東京・日本は世界最高の舞台になる —

東京1964大会から半世紀を経て、東京・日本に再びオリンピック・パラリンピックがやってきます。東京2020大会では、世界中から数多くの選手や大会関係者、観客が東京・日本を訪れます。大会を通じて、日本中、世界中に興奮と感動を呼び起こし、「記録」と「記憶」が人々の心にいつまでも残るすばらしい大会としていきます。

大会スケジュール

正式名称 **第32回オリンピック競技大会(2020/東京)**

開催期間 **2020年7月24日(金)～8月9日(日)**

競技数 **33** 競技

正式名称 **東京2020パラリンピック競技大会**

開催期間 **2020年8月25日(火)～9月6日(日)**

競技数 **22** 競技

大会ビジョン

スポーツには 世界と未来を変える力がある。

1964年の東京大会は日本を大きく変えた。

2020年の東京大会は、

「すべての人が自己ベストを目指し(全員が自己ベスト)」、

「一人ひとりが互いを認め合い(多様性と調和)」、

「そして、未来につなげよう(未来への継承)」

を3つの基本コンセプトとし、史上最もイノベーティブで、

世界にポジティブな改革をもたらす大会とする。

東京2020エンブレム



くみいちまつもん
組市松紋

- 「市松模様」を、日本の伝統色である藍色で、粋な日本らしさを描きました。
- 形の異なる3種類の四角形を組み合わせ、「多様性と調和」のメッセージを込めました。
- オリンピックエンブレム、パラリンピックエンブレムとも、同じ45ピースの四角形から構成されています。

東京2020マスコット

東京2020オリンピックマスコット



ミライトワ
MIRAITOWA

ミライトワという名前は、「未来」と「永遠(とわ)」というふたつの言葉を結びつけて生まれました。名前に込められたのは、素晴らしい未来を永遠にという願い。東京2020大会を通じて、世界の人の心に、希望に満ちた未来をいつまでも輝かせます。

東京2020パラリンピックマスコット



ソメイティ
SOMEITY

ソメイティという名前は、桜を代表する「ソメイヨシノ」と非常に力強いという意味の「so mighty」から生まれました。桜の触角を持ち、驚きの強さを見せるソメイティ。東京2020大会を通じて、桜を愛でる日本の心とパラリンピックアスリートの素晴らしい印象を伝えます。

世界最大のスポーツの祭典が東京にやってくる!

※東京2020大会の数字(一部予定)

参加アスリート数

11,090人 (オリンピック) 4,400人 (パラリンピック)



マスコット選定に
投票した小学校のクラス数
205,755クラス

授与される金メダルの数

339 (オリンピック) 540 (パラリンピック)



4 会場計画



会場計画コンセプト

Infinite Excitement

— 無限の可能性 —

東京2020大会の会場計画は、東京1964大会のレガシーを引き継ぐ「ヘリテッジゾーン」、都市の未来を象徴する「東京ベイゾーン」の2つのゾーンから構成されています。選手村を中心に広がる2つのゾーンは、無限大の記号をイメージさせます。東京2020大会を通じて、トップアスリートが灯した情熱と、次世代へつなげる可能性、そして語りつがれるレガシーが無限に広がっていくことを表しています。



■ オリンピック競技 ▲ パラリンピック競技

- 1 新国立競技場 (オリンピックスタジアム)
■開会式・閉会式/陸上競技/サッカー ▲開会式・閉会式/陸上競技
- 2 東京体育館
■卓球 ▲卓球
- 3 国立代々木競技場
■陸上競技(陸歩) ▲バドミントン/ウィルチアスラッグビー
- 4 日本武道館
■柔道/空手 ▲柔道
- 5 皇居外苑
■陸上競技(陸歩)
- 6 東京国際フォーラム
■ウエイトリフティング ▲パワーリフティング
- 7 国技館
■ボクシング
- 8 馬事公苑
■馬術(馬場馬術、総合馬術、障害馬術) ▲馬術
- 9 武蔵野の森総合スポーツプラザ
■バドミントン/近代五種(フェンシング) ▲車いすバスケットボール

- 10 東京スタジアム
■サッカー/近代五種(水泳、フェンシング、馬術、レーザラン)/ラグビー
- 11 武蔵野の森公園
■自転車競技(ロード)
- 12 有明アリーナ
■バレーボール(バレーボール) ▲車いすバスケットボール
- 13 有明体操競技場
■体操 ▲ボッチャ
- 14 有明BMXコース
■自転車競技(BMXフリースタイル、BMXレーシング)/スケートボード
- 15 有明テニスの森
■テニス ▲車いすテニス
- 16 お台場海浜公園
■水泳(マラソン/スイング)/トライアスロン ▲トライアスロン
- 17 潮風公園
■バレーボール(ビーチバレーボール)
- 18 青海アーバンスポーツ会場
■バスケットボール(3x3)/スポーツクライミング ▲5人制サッカー
- 19 大井ホッケー競技場
■ホッケー
- 20 海の森クロスカントリーコース
■馬術(総合馬術)
- 21 海の森水上競技場
■カヌー(スプリント)/ボート ▲カヌー/ボート
- 22 幕張メッセ Aホール
- 23 カヌー・スラローム会場
■カヌー(スラローム)
- 24 アーチェリー会場(夢の島公園)
■アーチェリー ▲アーチェリー
- 25 幕張メッセ Bホール
■フェンシング ▲テコンドー/車いすフェンシング
- 26 幕張メッセ Cホール
▲ゴールボール
- 27 有明テニスの森
■テニス ▲車いすテニス
- 28 幕張メッセ Cホール
▲ゴールボール
- 29 釣ヶ崎海岸サーフィン会場
■サーフィン
- 30 さいたまスーパーアリーナ
■バスケットボール(バスケットボール)
- 31 陸上自衛隊朝霞訓練場
■射撃 ▲射撃
- 32 霞ヶ関カンツリー倶楽部
■ゴルフ
- 33 江の島ヨットハーバー
■セーリング
- 34 伊豆ベロドローム
■自転車競技(トラック) ▲自転車競技(トラック)
- 35 伊豆マウンテンバイクコース
■自転車競技(マウンテンバイク)
- 36 富士スピードウェイ
■自転車競技(ロード) ▲自転車競技(ロード)
- 37 福島あづま球場
■野球・ソフトボール
- 38 横浜スタジアム
■野球・ソフトボール
- 39 札幌ドーム
■サッカー
- 40 宮城スタジアム
■サッカー
- 41 茨城カシマスタジアム
■サッカー
- 42 埼玉スタジアム2002
■サッカー
- 43 横浜国際総合競技場
■サッカー

(休冊子記載の情報は2018年9月現在のものです)

5 競技会場等

東京2020大会は、新規施設の他、東京1964大会のレガシー施設を含む多くの既存施設なども活用して、都内外の43会場で開催します。

■ オリンピック競技 ▲ パラリンピック競技



1 新国立競技場 (オリンピックスタジアム)

■開会式・閉会式 / 陸上競技 / サッカー
▲開会式・閉会式 / 陸上競技

東京1964大会のオリンピックスタジアムであった国立競技場が、2020年までに新しい競技場に生まれ変わります。東京2020大会では、開会式・閉会式のほか、陸上競技やサッカーが行われます。大会後は各種スポーツ・文化関連イベントに使用される予定です。

大塚建設・総設計・原研吉建築都市設計事務所 JV 作成 / JSC 提供
注) パース等は完成予想イメージであり、実際のものとは異なる場合があります。掲載は完成後、約10年の後を想定しております。



2 東京体育館

■卓球
▲卓球

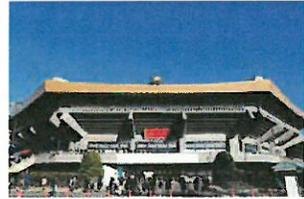
東京1964大会時に、メインアリーナで体操競技、屋内プールで水球が開催されました。1964年のオリンピックレガシーを有する施設のひとつです。



3 国立代々木競技場

■ハンドボール
▲バドミントン/ウィルチェアラグビー

東京1964大会時に水泳とバスケットボールの競技会場として使用するため、整備された施設です。高強力による吊り屋根に特徴がある建物で、現在でもオリンピックレガシーとして世界的に高い評価を受けています。



4 日本武道館

■柔道 / 空手
▲柔道

柔道をはじめとする日本の武道の聖地です。東京1964大会では、柔道がオリンピック競技として初めて実施され、この施設で開催されました。



5 皇居外苑

■陸上競技 (競歩)

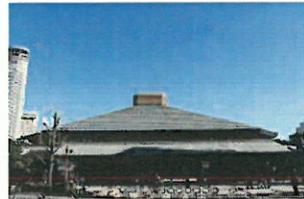
府松の点在する大芝生広場と江戸城のたたずまいを残す深堀門などの歴史的建造物とが調和し、日本を代表する公園として親しまれています。



6 東京国際フォーラム

■ウェイトリフティング
▲パワーリフティング

巨大な角形のアトリウム空間を持つガラス模がシンボリックな建物です。総合的な文化情報発信拠点として、大小8つのホールなどを備えています。



7 国技館

■ボクシング

日本の国技である相撲の聖地です。館内がすべて鉄柱になっており、観客は四方から中央で行われる競技を観戦することができます。



8 馬事公苑

■馬術 (馬場馬術、総合馬術、障害馬術)
▲馬術

東京1964大会時に馬術が行われた場所です。1964年のオリンピックレガシーを有する施設のひとつです。現在は、馬車普及拠点になっています。



9 武蔵野の森総合スポーツプラザ

■バドミントン/近代五種 (フェンシング)
▲卓球 / バスケットボール

東京スタジアムに隣接する場所に新しく整備された施設です。10,000人以上収容可能なメインアリーナなどを有する総合スポーツかつ多目的施設です。



10 東京スタジアム

■サッカー / 近代五種 (水泳、フェンシング、馬術、レーザーラン) / ラグビー

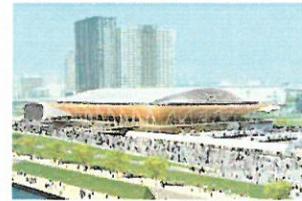
サッカーをはじめ、多彩なイベントに利用されている多目的スタジアムです。



12 有明アリーナ

■バレーボール (バレーボール)
▲卓球 / バスケットボール

有明北地区に新しく整備されるアリーナです。大会後は、15,000席の規模を活かし、東京の新たなスポーツ・文化発信拠点としていきます。



13 有明体操競技場

■体操
▲ポッチャ

有明北地区に仮設で整備される会場です。大会時には、約12,000人の客席数を有する競技場が建設される予定です。



11 武蔵野の森公園

■自転車競技 (ロード)

大会時には自転車競技 (ロード) のスタート地点として仮設施設が整備されます。公園の周囲には武蔵野の森が広がり、森の緑を背景として美しい景観が楽しめます。



15 有明テニスの森

■テニス
▲卓球 / テニス

このエリアは、日本のテニスの聖地とされています。緑に囲まれた敷地に屋外46面のテニスコートと「有明コロシアム」を備えています。



16 お台場海浜公園

■水泳 (マラソンスイミング) / トライアスロン
▲トライアスロン

海や緑の自然と、レインボーブリッジなどの未来的景観が融合した観光スポットである台場地区にある公園です。大会時には、仮設で競技会場が整備されます。



17 潮風公園

■バレーボール (ビーチバレーボール)

ウォーターフロントの象徴であるレインボーブリッジを背景に、東京湾の美しい景色を眺めることができる公園です。大会時には仮設で競技会場が整備されます。



18 青海アーパンスポーツ会場

■バスケットボール (3x3) / スポーツクライミング
▲5人制サッカー

選手村からも近い青海エリアの敷地に、仮設で整備される会場です。東京湾が見える場所に位置し、世界中の若者をエンゲージする東京2020大会を象徴する会場のひとつです。



19 大井 Hockey 競技場

■ホッケー

大井ふ頭中央海浜公園に整備される施設です。大会後は、ホッケーをはじめ様々なスポーツを楽しむ多目的球技場としていきます。



20 海の森クロスカントリーコース

■馬術 (総合馬術)

東京湾のすばらしい眺めとドラマチックな都市景観を一度に楽しむことができる埋立地です。大会時には、馬術のクロスカントリーコースが仮設で整備されます。



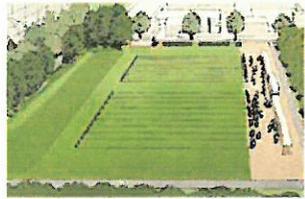
21 海の森水上競技場
■カヌー(スプリント)/ボート
▲カヌー/ボート

都心に近い東京の臨海部に新しく整備される施設です。大会後は、アジアの水上競技の中心となる国際水準の競技場としていきます。



22 カヌー・スラローム会場
■カヌー(スラローム)

高尾道海公園の隣接地に新しく整備される市内初の人工コースの施設です。大会後は、様々な水上スポーツ・レジャーを楽しむ施設としていきます。



23 アーチェリー会場(夢の島公園)
■アーチェリー
▲アーチェリー

夢の島公園内にアーチェリー会場を整備します。大会後は、アーチェリーを中心に、多様な活用を提供する施設としていきます。



24 オリンピックアクアティクスセンター
■水泳(競泳、飛込、アーティスティックスイミング)
▲水泳

辰巳の森海浜公園に新しく整備される施設です。大会後は、日本水泳の中心となる世界最高水準の水泳場としていきます。



25 東京辰巳国際水泳場
■水泳(水球)

東京都における水泳の中心的・象徴的施設としての役割を担う広域的な専門施設として設置されました。



26 27 28 幕張メッセ
■テコンドー/レスリング/フェンシング
▲シッティングバレーボール/テコンドー/車いすフェンシング/ゴルフボール

210,000㎡の敷地に「国際展示場」「国際会議場」「幕張イベントホール」の3施設で構成される複合コンベンション施設です。千葉県千葉市にあります。



29 釣ヶ崎海岸サーフィン会場
■サーフィン

「世界最高レベル」ともいわれる良質な波を求めて多くのサーファーが訪れる海岸です。東京2020大会追加競技が行われます。千葉県長生郡一宮町にあります。



30 さいたまスーパーアリーナ
■バスケットボール(バスケットボール)

スポーツイベント、コンサート、講演会などさまざまな用途に対応した国内最大級の多目的ホールです。埼玉県さいたま市にあります。



31 陸上自衛隊朝霞訓練場
■射撃
▲射撃

東京1964大会時にも、この訓練場でライフル射撃競技が行われました。大会時には、オリンピック基準に適合した射撃の仮設施設が整備されました。



32 霧ヶ峰カンツリー倶楽部
■ゴルフ

緑豊かな筑紫野丘陵に広がるゴルフ場です。ゴルフ伝承の一端を担う設計者により設計された、80年以上の歴史を誇る施設です。埼玉県川越市にあります。



33 江の島ヨットハーバー
■セーリング

東京1964大会時に使用するため、整備された日本初の競技用ハーバーです。1964年のオリンピックレガシーを有する施設のひとつです。神奈川県藤沢市にあります。



34 伊豆ベロドーム
■自転車競技(トラック)
▲自転車競技(トラック)

国際自転車競技連合(UCI)規格の周長250m木製走道を有する屋内型自転車トラック競技施設です。静岡県伊豆市にあります。



35 伊豆マウンテンバイクコース
■自転車競技(マウンテンバイク)

全長2,500m、高低差が85mあるオフロードコースです。静岡県伊豆市にあります。



36 富士スピードウェイ
■自転車競技(ロード)
▲自転車競技(ロード)

首都圏に最も近い国際サーキットです。場内には、最新の国際レーシングコースに加え、レース関係者や報道関係者などが利用する施設についても最新の設備が導入されており、大規模な国際大会の運営に対応しています。



37 福島あづま球場
■野球・ソフトボール

「スポーツを楽しむ」「自然と想い」「家族で楽しむ」「歴史文化」の4つのエリアを有する総合運動公園内にある野球場です。東京2020大会追加競技が行われます。福島県福島市にあります。



38 横浜スタジアム
■野球・ソフトボール

横浜公園内にある日本初の多目的スタジアムです。日本のプロ野球チームの本拠地にもなっています。東京2020大会追加競技が行われます。神奈川県横浜市にあります。



39 札幌ドーム
■サッカー

サッカーと野球のプロチーム2つの本拠地にもなっている施設です。日本最北にある全天候型ドームスタジアムです。北海道札幌市にあります。



40 宮城スタジアム
■サッカー

スタジアムの観客席を覆う大屋根は、仙台藩主「伊達政宗」の兜飾りの三日月をデザインしています。陸上競技兼サッカー球場です。宮城県宮城郡利根町にあります。



41 茨城カシマスタジアム
■サッカー

本格的なサッカー専用スタジアムで、常緑の天然芝フィールドとスタンドのどこからでも観戦しやすい観客席を有しています。プロサッカーチームの本拠地にもなっています。茨城県鹿嶋市にあります。



42 増玉スタジアム2002
■サッカー

アジア最大級・日本で最大のサッカー専用スタジアムです。埼玉県さいたま市にあります。



43 福岡国際総合競技場
■サッカー

日本最大規模の72,327席の観客収容能力を誇る屋外多目的競技場です。神奈川県横浜市にあります。



IBC/MPC(東京ビッグサイト)

約265,700㎡の敷地に、展示ホール、国際会議場、レセプションホールなどを備える日本最大のコンベンション施設です。大会時には、報道・放送センターになります。

選手村

東京都中央区臨海に位置する選手村は、44ヘクタールの敷地に整備され、宿泊棟は、オリンピック開催時に18,000ベッド、パラリンピック開催時に8,000ベッドを確保する計画となっています。大会終了後、大会中に一時使用した宿泊棟は改修し、新たに建築する高層棟とともに、分譲を行う予定となっています。

2020年の横浜五丁目地区
(選手村地区のイメージ)
© 2020年時点での暫定構想のみ掲載

【コミュニケーションの充実による取組の拡大・深度化】

- ・大会時の交通状況についての理解や混雑回避に向けた確実な準備の実施を促すため、業界団体等の協力を得ながら企業向けの説明会や個別相談会の開催を進める。(累計1,400社、約4,600人以上が参加(2019年4月時点))
- ・企業の担当者等とのコミュニケーションを行う中で得られる対策への意見や、取り組む上での課題等を踏まえ、適宜取組内容の見直し・改善を図っていくことが重要である。

＜説明会での主な意見等＞

計画、対応に関する意見

- ・会社全体や協力会社を含め考える必要がある
- ・従業員の通勤努力はできそう
- ・ベイエリア発の物流の対策を考えたい
- ・荷物の輸送頻度を低下させたい
- ・運送のリードタイムを緩和してほしい
- ・試行時にトライすることも必要 等

対策に取り組む上での課題

- ・運転手不足で対策は容易でない
- ・東京港の混雑を危惧している
- ・荷主との協力体制をつくるのに時間がかかる
- ・規制の範囲や影響がわからない 等

＜取組拡大・深度化のための方策(例)＞

プロジェクト参画企業の拡大

- ◆経済団体・業界団体を通じた呼びかけ・働きかけ
- ◆個別企業の直接訪問・依頼

取組の深度化

- ◆説明会・個別相談会の開催(全体・地区別・業界別)
- ◆ハンドブック・ベストプラクティスの紹介
- ◆支援事業(テレワーク・働き方改革等)の案内・周知
- ◆コンサルティング

【(3) 重点取組地区における集中的な働きかけ】

「競技会場等が集中」「道路・鉄道の混雑箇所を通過する交通が多い」16地区において、交通需要の効果的な分散・抑制を図る。

【重点取組地区の実施目標】

- ・重点取組地区に出入りする交通を30%程度低減
- 対象：重点取組地区に事業所がある、取引先がある企業など
- (取組例) 鉄道：テレワーク・時差出勤・休暇の取得 など
- 道路：社用車の利用自粛、会議の時期変更、納品時期の調整 など

＜重点取組地区(16地区)＞



＜取組推進スケジュール＞

全体説明会

2020TDM推進プロジェクトや大会の影響の周知等

2018年11月～

地区別説明会

地区内の課題の共有、経済活動を維持するための方策の提案

- ・交通集中の要因分析
- ・交通量を低減する取組メニュー

2019年2月～

アクションプランの作成支援

- ・個別企業等の2020アクションプランの作成・共有

2019年夏頃～

【(4) 大会時の物流円滑化に向けた取組】

物流についてはサプライチェーン全体での協力が必要であり、業種や業態毎の特性にも配慮するとともに、大会物流による影響も考慮しながら、発・着荷主、物流業も含めて、物流効率化、走行台数の低減に向けた取組を推進する。

【荷主企業や運送業者等の問題意識(例)】

時間指定、リードタイムの緩和

- ・時間指定や翌日納品で慣習化している部分がある
- ・輸出入で、複数の海外取引先があるが、前後半年～3か月をかけて少しずつコンテナ量を調整すれば大会中の量を減らせる可能性がある
- ・小ロットのものを多頻度で配達しているが、在庫スペースがあれば頻度を減らせる可能性がある

届け先での滞在時間の短縮など

- ・長時間待機、付帯作業、立ち合い検品などドライバーが届け先に長時間滞在し、結果として走行台数が増え、空車の時間も増えている
- ・搬入・搬出の時間が読めるようになれば、車両が減らせる可能性がある

企業連携、共同物流の促進

- ・トラックの積載スペースが余っていることがある。プラットフォーム作りや連携の呼びかけができるとうい
- ・温度指定が同じ軽いものと重いものを混載する等、他の企業と共同で取り組むメリットがある

＜物流関連企業ヒアリング等より＞

【ロンドン大会時の取組事例】

- ・営業時間の前倒し、在宅勤務、長期休暇取得の奨励
- ・大会前後の時期を活用した納品、在庫の調整
- ・メンテナンスの前倒し、メンテナンス頻度の低下の可能性を顧客へ事前に連絡、メンテナンス要員の配置の見直し
- ・臨時の配送拠点・在庫スペースの設定(店舗駐車場等にコンテナを設置)
- ・営業時間外に配送するための臨時の納品方法の設定(納品場所の合鍵の貸与等)
- ・近隣店舗との共同荷受け

【物流に関する取組メニュー(例)】

量・回数を減らす：まとめ納品・発注、リードタイム延長、積載効率アップ等

時期・時間をずらす：納品時期変更、夜間配送、時間指定変更(オフピーク)等

場所・ルートを変える：影響が大きいエリアを回避した走行ルートの設定等

【物流効率化に向けた取組】

荷主企業の更なる理解促進

ドライバー不足をはじめとする「物流危機」と呼ばれる状態を是正し、大会期間中の物流効率化を図るため、荷主企業へリードタイムの緩和など理解を求めていく

物流事業者の取組支援

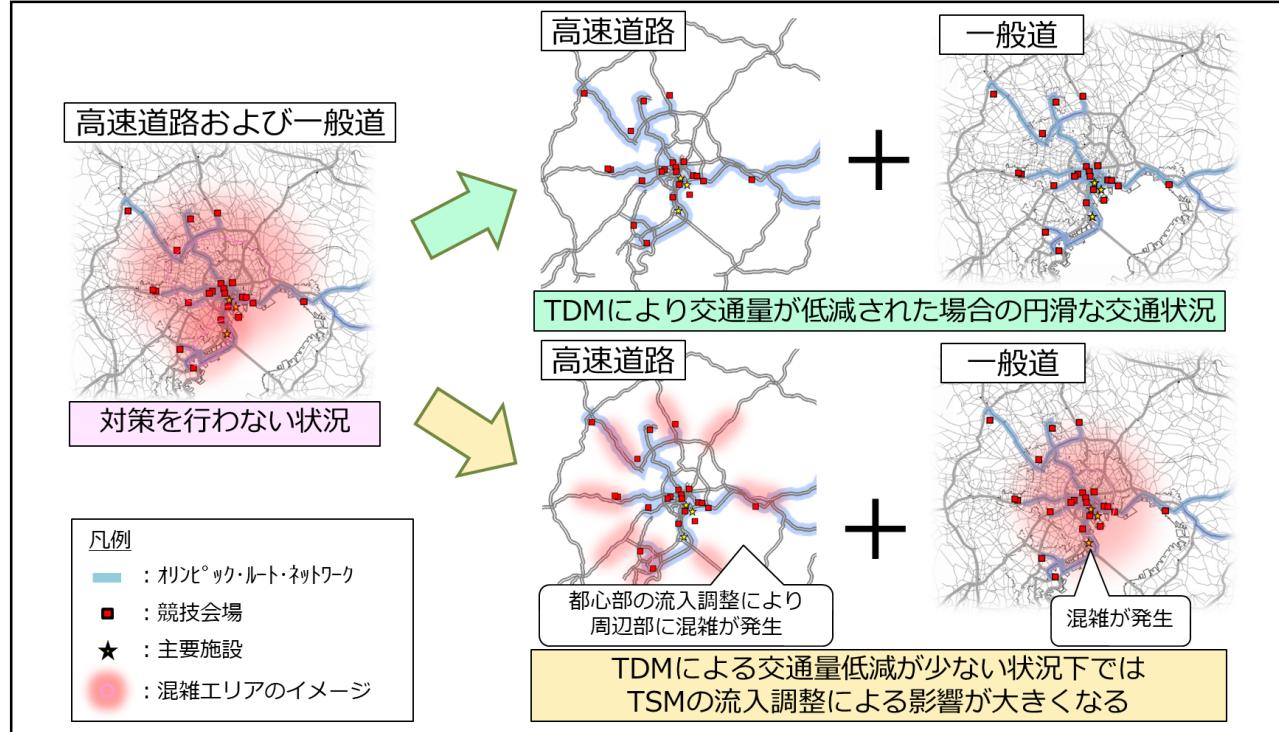
関係省庁と一体となり、ベストプラクティスの紹介、先駆的な取組への後押しを促進していく

6. 交通システムマネジメント (TSM)

(1) TSMの役割と対応方針

TSMによる交通量のマネジメントを効果的に実施するには、その前提として、TDMによる交通量低減が不可欠であり、TDMの効果等を踏まえ、状況に応じた段階的・局所的なTSMを計画・実施する。

・TDMによる交通量の低減が少ない状況下では、TSMによる影響が増大する。



○TSMによる各種対策を状況に合わせて柔軟に実施することにより、交通需要の時間的・空間的な集中を緩和し、オリンピック・ルート・ネットワーク (ORN) の円滑な交通状況を維持する。

○通常の状態であるレギュラー時のほか、「事故、自然災害等に伴う交通容量低下や、他路線からの交通転換などの需要増により、ORNが本来の機能を発揮できない状況」をイレギュラー時と定義し、対応を行う。

【レギュラー時の対応】

○高速道路では、TDMの効果による状況に応じて、必要な量の流入調整を行う

- ①都心方向へ向かう経路上の本線料金所での開放レーン数の制限による通行制限
- ②ORN上の混雑を解消するために効果的な入口の閉鎖

○一般道では、大会専用レーン・優先レーンの設定、駐車対策、信号調整、会場周辺での車両通行禁止等を現地の状況を踏まえ実施する

【イレギュラー時の対応】

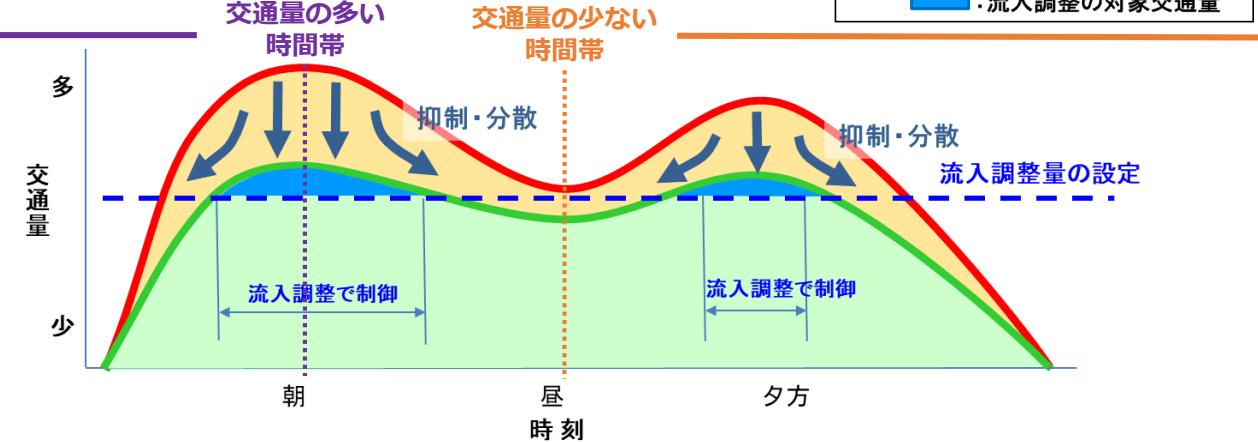
○イレギュラー時にはレギュラー時の対応の強化に加え、本線車線規制、区間通行止、高速道路のJCT方向別規制等を事象の内容や程度に応じて実施する

※これまでの検討により車線数が少なく分合流の多い都心部の高速道路で大会専用レーンを全面的に導入すると、JCTなどでは一般交通との交錯が避けられないことなどにより、一般交通へ深刻な影響が発生するのみならず、大会関係車両にも遅滞をもたらす影響が生じることが確認されている。

(2) 実施イメージ

・TSMはピーク時を中心として、対象路線の交通量が適正なレベルとなるよう制御を行う。

＜流入調整のイメージ＞



＜交通量の少ない時間帯のイメージ＞



※実施する対策は現地の状況によって異なる

＜交通量の多い時間帯のイメージ＞



※実施する対策は現地の状況によって異なる

※TDMの効果や時間帯による交通状況の変化に応じて必要量の流入調整を行う

※一般道での対応は交通量が少ない時間帯と同様

7. 公共交通輸送マネジメント

「輸送力の確保」「観客の需要分散・平準化」「一般利用者の需要分散・抑制」の3つの施策を効果的に組み合わせ、安全・円滑な観客輸送を実現する。

(1) 3つの施策

【輸送力の確保】

混雑の激しい区間・時間帯を中心に、増発等の輸送力増強を図ることが必要

《鉄道事業者との調整状況》

- ・朝ピーク時間帯は、ダイヤ、車両、要員を既に最大限活用しており増発の余地は少ない
- ・朝ピーク時間帯以外は、路線により増発等の対応の可能性あり

⇒2019年秋時点の情報による需要推計に基づき、大会時の具体的なダイヤ策定を鉄道事業者に依頼（日中時間帯の増発・終電後の延長運転等）

【観客の需要分散・平準化】

観客の需要分散・平準化については、引き続き具体的な施策実施に向け、ラストマイル※や会場等におけるオペレーションも含めた検討、準備が必要

⇒テストイベントやスポーツイベント等を対象に、分散施策の有無による入退場分布の調査やアンケート調査等により効果検証のうえ、施策内容を具体化

【一般利用者の需要分散・抑制】

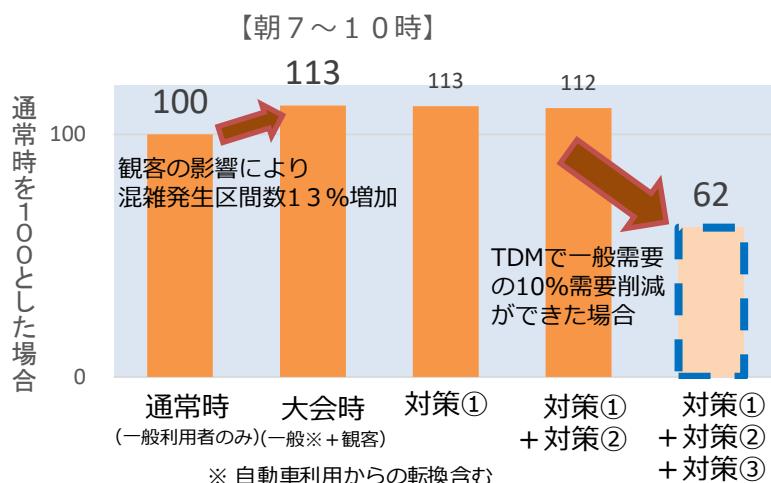
企業や市民への働きかけや重点取組地区における集中的な働きかけ等により、交通需要の低減や分散を図ることが重要

(2) 各施策の効果と今後の進め方

【朝ピーク時間帯】

朝ピーク時間帯は広範囲で混雑が発生するが、輸送力増強の余地は少ない。こうした中、観客に比べ一般利用者が多いことを踏まえて、観客の需要分散・平準化に加え、TDMの取組が重要である。

＜施策の効果（混雑発生区間数の変化）＞



～表の解説～

- ・各施策の実施を仮定した場合の混雑発生区間数の変化を示す。
- ・混雑発生回数
東京圏の鉄道ネットワーク（駅間断面数：約3,000）において、30分単位で駅間ごとに混雑率を需要推計に基づき算出
混雑率150%以上となる区間数を「混雑発生区間数」とした。
（オリンピック競技が行われる19日間の累計）

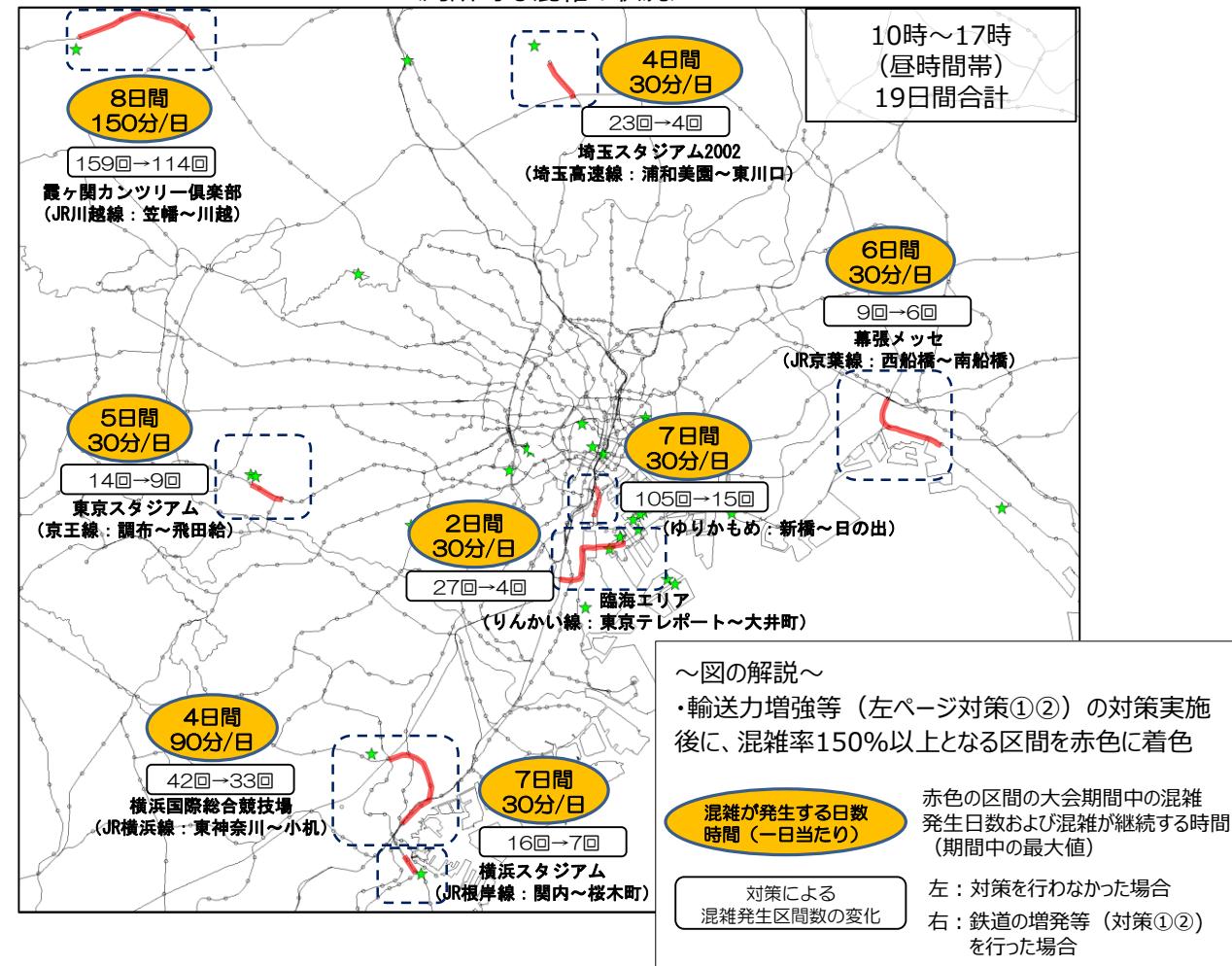
対策①輸送力の確保：増発等の可能性があるものを全て実施したと仮定
対策②観客の需要分散・平準化：既存イベント事例等から、自由席による需要分散効果程度を仮定
対策③一般利用者の需要分散・抑制：10%の一般需要削減を仮定

【昼時間帯】

昼時間帯は比較的輸送力に余裕があり、自動車利用からの一部シフトや観客需要が加わっても、多くの箇所では必要な輸送力が確保されている。

しかし、輸送力の増強等により一定の混雑は解消されるものの、会場近傍など一部の区間においては、局所的な混雑が残る。このような区間については、会場ごとに、**更なる「観客の需要分散・平準化施策」**の検討が必要である。

＜局所的な混雑の状況＞



(3) 駅での対策（鉄道事業者等との連携）

- 観客等の不慣れな利用者に起因する滞留等を防ぐための駅における具体的な案内・誘導
- 競技会場からの退場方法や駅までの観客誘導方法との連携も含めた駅毎の具体的な運用検討

(4) 今後の検討課題

- 3つの施策
 - ・観客の需要分散・平準化の更なる推進が必要
 - ・臨海部における観客需要への全体的な対策が必要
 - ・TDM効果の反映を含めた需要推計及び大会輸送影響度マップの更新・機能付加
 - ・3つの施策の効果を高める情報発信が必要
- その他
 - ・円滑な旅客流動の確保（IC乗車券の利用推進、駅における案内サイン）
 - ・一般利用者への影響の検証、必要な対策の検討

8. 道路交通に関する追加対策の検討

(1) 首都高での流動確保策

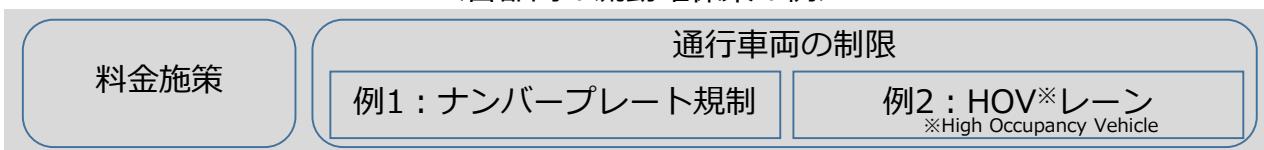
首都圏の都市活動・経済活動を支える大動脈であり、選手やメディア等の大会関係者の輸送の基軸となる首都高の円滑な流動確保は重要である。

働きかけによるTDMにより全体の交通量が減少した場合においても、首都高の交通量が減りづらい傾向にあること、約1か月に及ぶ大会期間中に交通需要の低減・分散の継続が必要であることなどを踏まえ、首都高の流動確保に向けた追加対策の検討が必要である。

＜追加対策の検討の基本的な考え方＞

- ①大会輸送の円滑化 ⇒ 大会期間中に限定して適用
- ②都市活動の安定 ⇒ 代替手段の無い物流車両には基本的に適用しない
(物流車両の範囲は検討が必要)

＜首都高の流動確保策の例＞



(2) 一般道での対策

- 駐車場探しによるうろつき交通の抑制（駐車場の予約制の導入など）
- イレギュラー時における現地対応（車線規制等）の強化

9. 交通マネジメント推進に向けた試行

大会までの様々な機会を捉え、交通マネジメントの実効性等の検証や、課題を踏まえた改善策を検討し、必要な調整や見直しを着実に実施する。特に2019年夏には大会本番を見据えた総合的なテストを実施する。

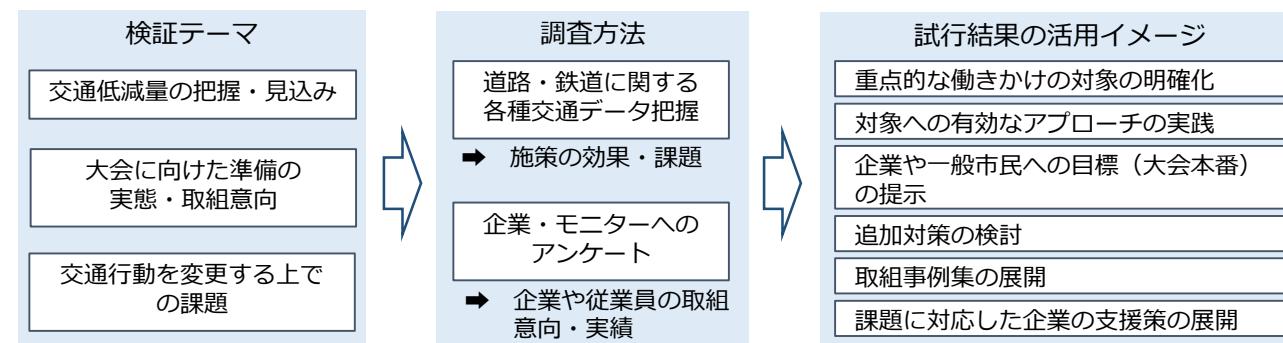
＜2019年夏の試行概要(案)＞

- ・大会本番並みの目標を掲げ、交通混雑緩和に向けた取組を総合的にテストする期間を設定
- ・試行において検証を行った上で、必要な見直しを実施
- ・オリンピック・パラリンピック競技大会の期間に相当する期間を集中取組期間とし、企業等に重点的な取組を依頼
- ・各社取組のピークを合わせるチャレンジウィーク及びコア日には、効果測定を実施。TSMは大会時と同等規模で数日試行する他、選手村～競技会場間のバス・フリート等の試走（コア日等）も予定
- ・さらに、大会までに実施されるテストイベントに合わせた検証を実施

2019年カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
7/14	15	試行期間(スムーズBiz推進期間)				20
21	チャレンジウィーク(7/22～26)、コア日を設定					27
28	集中取組期間①(7/22～8/2)					3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	集中取組期間②(8/19～8/30)					24
25						31
9/1	2	3	4	5	6	7

＜検証テーマ、試行結果の活用イメージ等＞



10. 交通マネジメントに関する広報及び情報の共有

多くの企業や市民の理解を得て、大会を成功に導くためには、試行段階から、大会時の交通状況や協力をお願いをわかりやすく、きめ細やかに隔々まで伝えていく広報戦略が必要

- 大会輸送や交通マネジメントに関する効果的な広報（大会輸送影響度マップ、試行や大会を見据えたイベント開催、HPによる情報提供に加えポスター・サインージなどの活用）や迂回誘導を行う情報ツールの検討
- 大会時の交通関連情報の収集、モニタリング・情報共有体制の整備（大会関係者や観客の安全・円滑な輸送実現のために総合調整を行う部署として輸送センターを整備）

11. その他

(1) 交通マネジメントの推進に併せ検討等が必要な事項

- 会場周辺地域等における駐車場対策、会場周辺における交通対策の検討
- 事故発生頻度を抑える交通事故防止対策の推進による確実なイレギュラー対応の実現

(2) 将来の都市交通に関するレガシー

オリンピック・パラリンピックにおける安全で円滑な輸送と、都市活動の安定との両立に向け交通マネジメントに取り組むことは、世界の潮流である。行政、経済界、企業、そして市民一人一人が一体となって、総合的かつ先進的な交通マネジメントを実現し、東京2020大会を成功に導いていく。日本社会だからこそできる取組を世界に向け発信し、次の時代へのレガシーとして継承していく。

- ①働き方改革や物流の効率化が実現し、持続的な経済発展が続く中で、交通の時間的・空間的な集中を避けた上手な交通行動が、市民の理解と協力のもとに実現された状態の定着
- ②道路・公共交通ネットワークに関する交通情報や取るべき行動を知らせる情報提供、災害時等でも円滑な輸送が可能となるツールや体制の構築
- ③道路・公共交通ネットワークにおけるバリアフリー化、駅改良などの推進

東京オリンピック・パラリンピック競技大会の 交通対策に向けた2019年夏の試行概要(案)について

東京都

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

(1) 試行期間

- ▶ 大会本番並みの目標を掲げ、交通混雑緩和に向けた取組を総合的にテストする期間を設定
(参考) 全体平均で10%程度、重点取組地区を発着する交通について20~30%分散・抑制
- ▶ オリ・パラの期間に相当する期間を集中取組期間とし、企業等に重点的な取組を依頼
- ▶ 各社取組のピークを合わせるチャレンジウィーク及びコア日には、効果測定を実施
- ▶ TSMは大会時と同等規模で数日試行する他、選手村~競技会場間でのバス・フリート等の試走(コア日等)も予定

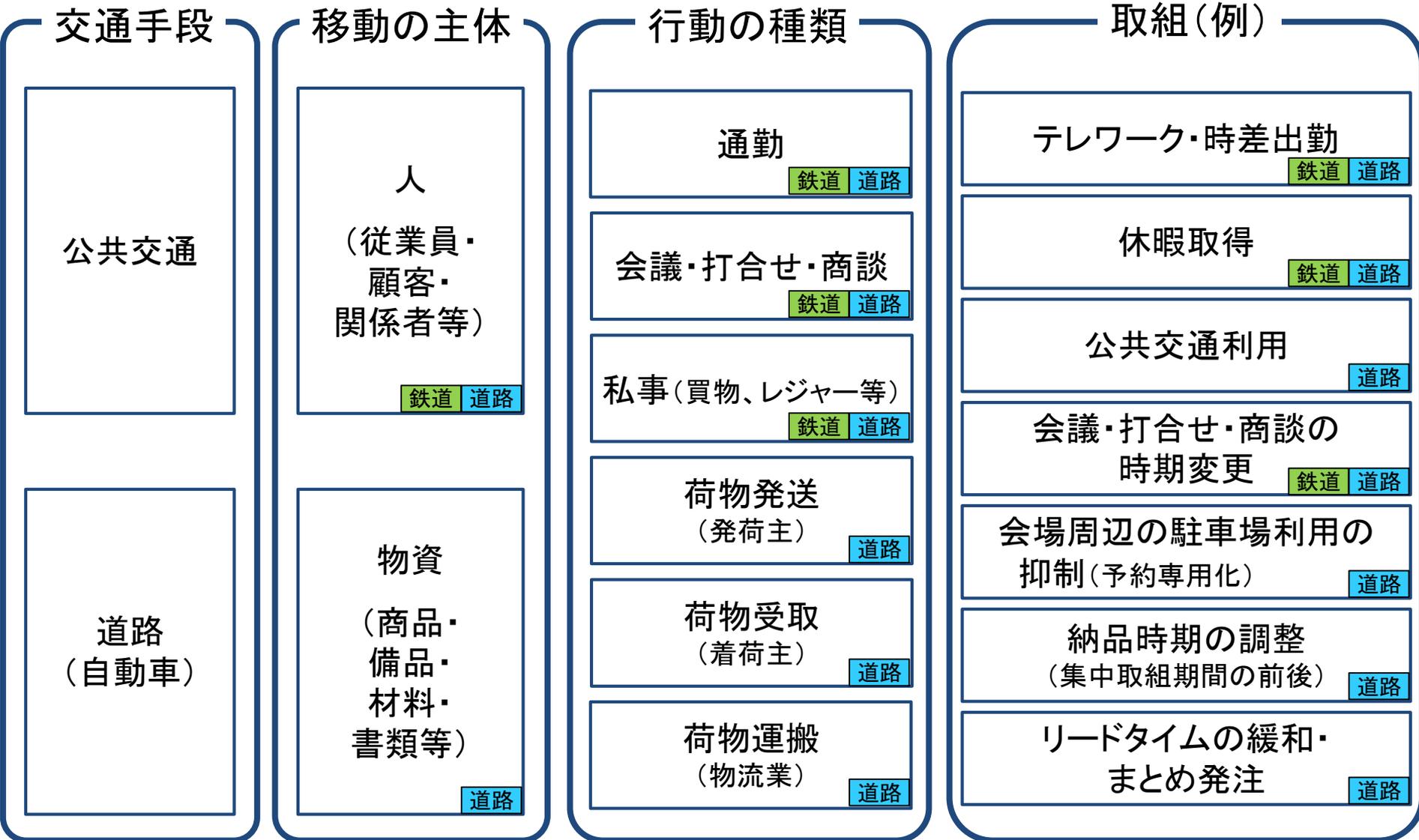
2019年カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
7/14	15	スムーズビズ推進期間				20
21	チャレンジウィーク(7/22~26)、コア日を設定 集中取組期間① (7/22~8/2)					27
28	集中取組期間② (8/19~8/30)					3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	集中取組期間② (8/19~8/30)					24
25	集中取組期間② (8/19~8/30)					31
9/1	2	3	4	5	6	7

(参考)2020年カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
7/19	20	21	22	23	オリンピック期間 (7/24~8/9)	
16	17	18	19	20	21	22
23	24	パラリンピック期間 (8/25~9/6)				
	7	8	9	10	11	12

(2) 期間中企業に協力いただきたい取組(例)



※業種などにより、上記項目などから選択して実践をお願いします。

(3)「都庁2020アクションプラン」の取組概要

◆大会時の交通混雑緩和のため、都庁自らが取り組む内容を「都庁2020アクションプラン」として策定

<都庁2020アクションプランの取組内容 (抜粋) >

※ 警視庁、東京消防庁を除く都庁全局が対象

取組項目	取組内容 (いつ・どのくらい)
オフピーク通勤の実施	本庁職員の約半数(5,000人程度)が時差出勤・テレワーク等を実施
研修等の実施時期の変更	大会期間中に職員研修の実施を避けるよう研修計画を策定
庁有車利用の抑制	本庁・事業所全てで利用を控え、利用が必要な場合も高速道路等を避ける
備品・コピー用紙等の納品時期変更	大会前にまとめて納品し、本庁・事業所含む約900箇所への納品ゼロ
コピー用紙・ごみの削減	会議資料の電子化、ごみ搬出前・後倒しによりごみ総量約40%削減を目指す
都庁発注工事の調整[追加]	大会関係地域等で、工事の発注時期等を調整する。 (※その年に必要な工事を着実に実施することを前提)

通勤時など
鉄道混雑
を緩和!

臨海部など
道路混雑
を緩和!



※緊急の場合や業務上実施が不可欠な場合等は除く

大会1年前の本番テストとして、今夏に各局でアクションプランの取組を大会時を想定して実施

<2019年夏の取組>

日	月	火	水	木	金	土
7/14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	8/1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31
9/1	2	3	4	5	6	7

□ スムーズBiz推進期間

○時差出勤・テレワーク等を実施 (※集中取組期中は大会時と同程度の規模を想定して実施)

■ 集中取組期間① (初週期間に相当)

■ 集中取組期間② (ハリリ初週期間に相当)

○庁有車利用を控える
○コピー用紙・ごみの削減

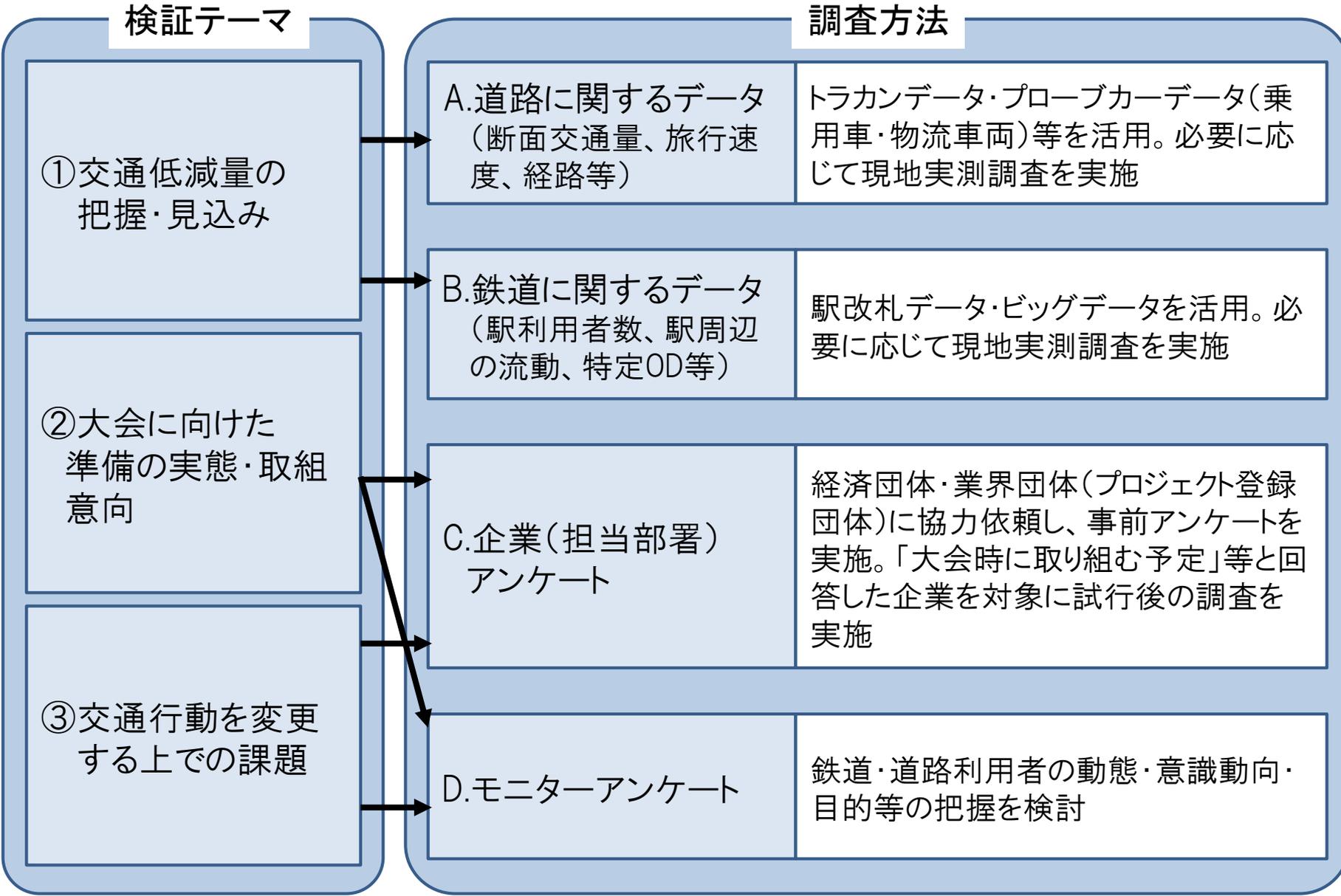
○備品やコピー用紙等の納品ゼロ (前倒し)
○工事車両の出入り時間の調整など 等



※今後、取組の詳細を詰めていく

- ◆効果や課題等を検証し、大会開催時に向けた取組に反映
- ◆都庁の取組を企業に示し、アクションプランの作成・取組をお願いしていく

(4) 検証テーマと調査方法(案)



(5)テストイベントに合わせた検証(案)

検証内容(イメージ)

- ・テストイベント時の交通影響
- ・路上競技実施時のう回の発生状況
- ・交通量低減の集中的な呼びかけの効果
- ・物資の輸送のリードタイムや時間指定の緩和の効果
- ・選手村～会場間の円滑性確保を目指した本線料金所・入口の流入調整のテスト(交通量変化、料金所上流での滞留、閉鎖入口周辺の混雑)
- ・鉄道駅混雑のマネジメント など

参考:検証対象とするイベント(候補)

- ・以下のテストイベント等の中から複数選択し、検証を実施することを想定

- ①7/23(水)～28(日) バドミントン 【武蔵野の森総合スポーツプラザ】
- ②7/25(木)～28(日) バレーボール(ビーチバレーボール) 【潮風公園】
- ③8/7(水)～11(祝) ボート 【海の森水上競技場】
- ④8/14(水)～16(金) ゴルフ 【霞ヶ関カンツリー倶楽部】
- ⑤8/15(木)～18(日) トライアスロン 【お台場海浜公園】
- ⑥8/20(火)～25(日) バスケットボール 【さいたまスーパーアリーナ】
- ⑦8/25(日)～9/1(日) 柔道 【日本武道館】
- ⑧9/6(金)～9(月) 空手 【日本武道館】
- ⑨9/15(日) 陸上競技(マラソン) 【明治神宮外苑】
- ⑩9/20(金) ラグビーW杯 2019 開会式 【東京スタジアム】

(6) 取組の促進方法(案)

- 2020TDM推進プロジェクト参加企業や、関連する取組(テレワークデイズ2019、スムーズビズ等)への参加企業等に対し、試行実施を呼びかける
- 関連主体と連携し、促進を図る

〈取組地域ごとの働きかけ方〉

取組地域	地域の位置づけ	取組地域での呼びかけの方法
①概ね圏央道内側	都心部との往来が見込まれる広域的な地域	各経済団体等への協力を依頼 →企業等に呼びかけ
②重点取組地区 (16地区)	競技会場等が集中、道路・鉄道の混雑箇所を通過する交通が多い地区において重点的な取組を実施	
③特定のエリア	特有の課題を有するエリアにおいてさらに集中的な働きかけを行い、効果検証を実施	街単位の企業で構成される まちづくり協議会等と連携を想定

(7)アウトプットイメージ

取得事項

①働きかけの実績
(説明会、個別訪問等)

②断面交通量の変化
(高速・一般道の混雑箇所等)
走行経路の変化
(乗用車・貨物車の動き)
改札通過人員(鉄道)
地区内滞在者数

③企業(総務・物流担当)
アンケート

- ・取組規模(メニューごとのおおよその取組割合)
- ・大会時の取組意向
- ・取り組もうとしたができなかったこと、取組規模拡大のための必要条件

④モニターアンケート

- ・目的・交通手段別の発着・経由地、走行距離の変化、取組メニュー
- ・大会時の取組意向
- ・各メニューに取り組む上での課題

⑤一般利用者アンケート

- ・大会時の取組意向

検証内容(案)

人の動き・物の動き共通(鉄道・道路)

a. 働きかけやお願いボリュームと企業の取組規模の相関

b. 取組規模が大きいエリアでの交通量の減少量

c. 拡大試算：上記の相関、取組規模を他のエリアにあてはめた場合の全体の減少量等

d. 課題：周知の不足、制度変更・取引先との調整が間に合わない、社内や業界の慣習一般道への影響等

e. 取組メニューの実績

物の動き(道路(貨物))

f. 荷主との対話を通じたリードタイムや時間指定の緩和等に取り組むことによる配送頻度や走行台数の低減

g. サプライチェーンの中で関係者が工夫すべき点、調整余地

大会に向けた取組イメージ

重点的な働きかけの対象の明確化 (a・b・c・d)

対象への有効なアプローチの実践 (a・b・e・f・g)

エリアごとの直接訪問、経済団体・業界団体からの働きかけ、説明会、コンサルティング等の組合せ

企業や一般市民への目標(大会本番)の提示 (c・d・e)

追加対策の検討 (c・d)

取組事例集(ベストプラクティス)の展開 (e・f)

課題に対応した企業の支援策の展開 (d・g)

(8) 試行の広報(案)

- 企業等を中心に、試行実施の周知及びTDMへの協力呼びかけを行う
- 併せて、高速道路利用者を中心に、TSM等の内容の事前周知を行う
- 関係機関と連携し、一体的な広報展開を目指す(テレワークデイズ2019、スムーズビズとも一体的に展開していく)

	媒体等(例)	想定内容
TDM	HP	・2020TDM推進プロジェクトHP等に掲載 ※TSMの掲載ページ、業界団体HP等と相互リンクするように調整
	ポスター、チラシ、サイネージ、情報板	・駅、業界団体、企業、省庁、自治体等への配布、掲載を調整
	メール	・業界団体を通じて所属企業に呼びかけ ・プロジェクトのメーリングリストを通じて呼びかけ
	イベント	・試行内容のPR、参加企業の取組紹介 等
	説明会等	・重点取組地区・全体説明会でのお願い、個別企業訪問 ・都外企業への呼びかけ
TSM	HP	・関係機関のHP等への掲載を調整
	ポスター、チラシ、情報板等	・高速道路SA、PA等にて掲示・配布・掲載等を調整
	横断幕	・高速道路上の施設などへの添架等を調整

※行政機関、関係団体にも協力を要請

平成 31 年 4 月 12 日
 港 湾 局
 オリンピック・パラリンピック準備局
 都 市 整 備 局



東京港のコンテナターミナルの ゲートオープン時間を拡大します

【東京 2020 大会時における交通混雑の緩和に向けたトライアル】

東京 2020 大会では、多くの競技会場が東京港周辺に配置されます。このため、大会運営と円滑な港湾物流を両立させるには、大会期間中における臨海部の交通混雑を緩和させる必要があります。

そこで、2020 大会時の交通需要マネジメント（TDM）に向けた取り組みとして、東京港のコンテナターミナルにおける貨物の搬出入時間（ゲートオープン時間）を拡大するトライアルを実施します。

- 1 実施日
 平成 31（2019）年 4 月 24 日（水曜日）から同月 26 日（金曜日）まで
 令和元（2019）年 5 月 7 日（火曜日）から同月 9 日（木曜日）まで 計 6 日間
- 2 実施するコンテナターミナル
 東京港の全てのコンテナターミナル
- 3 ゲートオープンの拡大時間
 早朝 7：30～8：30（1 時間）
 夜間 16：30～19：30（3 時間）

※ 通常のゲートオープン時間 8：30～16：30

<スムーズBizとは>

東京都は、快適な通勤環境や企業の生産性の向上を図る新しいワークスタイルや企業活動の東京モデルを「スムーズBiz」とし、全ての人がいきいきと働き、活躍できる社会の実現に向け、2020 大会の交通混雑緩和に向けた交通需要マネジメント（TDM）とテレワーク、時差 Biz などの取組を一体的に推進しています。



【問い合わせ先】

- ◆「ゲートオープン時間の拡大」に関すること
 - 港湾局 港湾経営部 振興課長 鈴木 電話：03-5320-5545（内 43-240）
 - 都市整備局 都市基盤部 調整担当課長 小松 電話：03-5388-3317（内 30-403）
- ◆「TDM」に関すること
 - オリンピック・パラリンピック準備局 大会施設部 輸送課長 松本 電話：03-5320-6896（内 38-540）

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に関する
駐車場対策への協力のお願い

国土交通省道路局
東京都都市整備局
東京都オリンピック・パラリンピック準備局
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 輸送局

東京オリンピック・パラリンピック大会期間中の輸送対策については、働きかけによるTDM(交通需要マネジメント)に加え、会場周辺など重点的に交通を抑制するエリアにおいて、駐車場探しによるうろつきを抑えるため事前予約システムの導入やパークアンドライドの促進などの対策が必要です。

これらの対策の推進に当たっては、民間駐車場事業者等の取組が必要不可欠であることから、ご協力をお願いします。